

鳥取県最大の多目的ダム すげさわ 菅沢ダム



鳥取県西部を流れる日野川は、千代川、天神川と並ぶ鳥取三大河川の一つで、中国山地の三国山を源流とし、美保湾に流入する全長約 77km の県内最大の河川です。

上流には鳥取県では珍しい非変性の古生層、三郡変成岩、そして中生代末から古第三紀に貫入した花崗岩が広く分布しています。その風化花崗岩が砂鉄を生み出し、たたら製鉄を盛んにしました。なかでも印賀（現・日南町大宮）で採れた玉鋼のことを印賀鋼とよび、古くから鋼の産地として各地に知られていました。

中国山地から北に流れる日野川の延長は約 77km、その反対側を南に流れている高梁川の延長は約 111km です。同じ高さから流れ下るとすれば、日野川水系のほうが急流といえます。流れが速いほど山や川を削り、土砂を下流に流し、洪水を引き起こす要因となります。これらを検討した結果、日野川総合開発計画の要として菅沢ダム建設が計画されました。

ダムの目的は沿川の治水機能の向上、米子市や境港市への工業用水と電力の供給、そして米子平野へのかんがい用水を確保することで、言い換えれば鳥取県西部の民生安定と経済発展への寄与です。昭和 34（1959）年より調査を開始、同 39 年に工事に着手され、9 年余りの歳月と約 30 億円の事業費を投じて昭和 43 年 9 月に完成しました。

その後 30 数年経過し、施設の老朽化や不具合が生じていました。加えて平成 12（2000）年 10 月 6 日に発生した鳥取県西部地震は、震源の深さ 9km と浅かったうえ、最も揺れの激しかった場所は菅沢ダムのすぐ傍でした。管理所を襲った震度 6 強の揺れは、庁舎にクラックを刻み付けましたが、堤体は無傷でした。菅沢ダムに携わった関係者は当然とは言え胸をなでおろされたでしょう。平成 14 年度から管理庁舎の建替え、平成 19 年から選択取水設備、小規模放流管の設置など、順次施設改良が行われました。新しくなった菅沢ダムは、今後も日野川流域の総合開発に寄与していくことでしょう。

■位置図



日南湖に架かる日南湖橋



菅沢ダム上流面



菅沢ダムと日南湖



菅沢ダム放流設備
ダム完成 40 年を機に平成 19 年より選択取水設備の設置、小規模放流管の設置が行われた。